

郡上農林事務所の普及活動状況 令和4年5月31日現在

今月の重点活動

■ひるがの高原いちご組合 出荷開始に向けて勉強会を実施

5月23日、高鷲地域で夏秋いちごの生産に取り組む9戸の組合員が集まり、栽培勉強会が開催された。夏場の高温対策のための循環扇や遮光資材の導入などについて意見交換が行われ、高品質生産に向けた取り組みが検討された。

農業普及課からは7月の収穫開始を控え、適切な農薬使用のため農薬一覧表や防除暦を配布し、AIを用いた生育計測アプリやスマート農業技術力向上研修の紹介などを行った。

これからも栽培管理や病害虫防除などに関する情報提供を通じて、産地における高品質で安全な夏秋いちごの生産支援行う。



【勉強会の様子】

郡上の農業・農村を支える人材育成

■だいこん ひるがの高原だいこん生産組合 品種検討

ひるがの高原だいこん生産組合では、若手生産者で構成する成年部が中心となり、新品種栽培や各種資材の試験に取り組んでいる。

5月17日には、組合役員やJA事務局、農業普及課による品種検討会を開催し、種苗会社の担当者より品種特性など聞きつつ、品種サンプルのだいこんの外観や内部品質を確認した。このサンプルは、種苗会社が平坦地の試験ほ場において冬に栽培したもので、夏だいこんの高鷲地区の品種選定にも参考とした。

今年度は、は種期ごとに2～3品種を試験栽培し生育を評価するとともに、農業普及課が巡回して収穫調査を行う。

品種は、生産安定のための重要な技術の一つであり、農業普及課では産地の出荷量確保に向け、調査や結果のとりまとめなどの支援を行う。



【サンプルを見ながら
試験品種を検討】

安心で身近な「郡上の食」づくり

■大麦 安全・品質の向上を目指して

郡上市南部地域の大麦が収穫時期を迎えつつあり、5月10日には、赤かび病の発生調査をJAと連携して実施した。麦の赤かび病は、開花期～収穫期に発生する病気であり、収量や品質が低下するだけでなく、人や家畜に対して有害なかび毒を発生するため、防除が必須の病気である。

今年は高温多雨で発生しやすい気象条件であったが共同防除を2回実施した効果もあり、出荷に影響ない軽微な発生に留まっていた。

5月25日には、収穫時期を決めるため、穀粒水分調査を実施し、今後の天候次第ではあるが、5月28日から収穫開始を決定した。

農業普及課では、収量や品質の向上を目指し、関係機関と連携して支援を行っていく。



【大麦の赤かび病調査】

郡上農畜水産物のブランド展開

■南天 郡上八幡南天生産組合が役員会を開催

郡上南天は、出荷体制の整った歴史ある生産組合から出荷されており、市場での評価が高い。ここ2年間は新型コロナウイルスの影響で活発な活動を控えていたが、5月20日に開催された第1回理事会で本年度の活動方針を決定した。

懸案だった「南天まつり」については、街中に新たに誕生したイベントブースを活用した期間限定のイベントを開催する運びとなった。

農業普及課では、出荷に向けた作柄予測の精度向上のための調査に協力するなど、生産組合活動を支援する。



【理事会の様子】

■夏秋トマト 地域別研修会を開催

郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会では5月25日および5月26日に地域別研修会を開催し、部会員の栽培技術の向上に努めた。郡上は高標高地域（高鷲、石徹白）から低標高地域（八幡、和良）にかけてトマトが栽培されており、管内を4つの地域に分け、それぞれに合わせた現地研修会を毎月開催している。

今回の研修は定植後～梅雨時期の草勢維持のため、急激な天候の変化に合わせた対策などを農業普及課から説明した。

近年は想定外の異常気象等により収量が不安定であるが、若手生産者も増えてきていることから、栽培技術の向上・徹底により生産安定・向上を図っていく。



【地域別研修会】